

《芽生え賞》

「コロナのせいで、コロナのおかげで」

有田市立文成中学校 一年

ひのまつ
平松 瑛斗 さん

「来週から学校が休みになります。」

と、担任の先生が言った。

「え、うそやろ。」

二〇二〇年二月の末ごろ、政府が、全国の小中学校に休校要請を発令した。

残り少ない小学生生活が静かに終わってしまった。すぐこのコロナの流行もおさまり、もとの生活にもどれるだろうと思っていた。だが、コロナがおさまることはなかった。

四月になり、不安の中、僕の中学生生活がはじまった。入学したものの、学校へはほぼ行くことができず、自宅ですごすことになってしまった。

僕は毎日、新聞を読み、テレビのニュースを見て、インターネットでもコロナについての情報を調べた。

いつ終わるかわからない自粛期間が始まってしまった。

とりあえず、ボーツとしてみる。少し勉強してみる、剣道のトレーニングをしてみる。色々なことを試し、実行してみた。だけど、どれも長続きせず一日、一日と過ぎていくばかりだった。

僕は「このままではだめだ」と思った。とりあえず勉強だけでもスケジュールを決め、実行することにした。

「まず、時間の設定だ。」

と、思った僕は、四十五分勉強し、十五分休けいするという時間割りを決めて、毎日実行してみた。すると、今までと、見ちがえるようにスムーズにすすみ、すっきりとした気持ちで一日が終わっていった。

そして、僕はこの調子で、トレーニングの時間、ゲームの時間のスケジュールを立ててみた。

すると、一日が短く、楽しく感じるようになった。僕のモチベーションは上がって、達成感を感じることができた。

休校期間の終わりが、どんどん先へのびていくなか、保っていた気持ちも下がっていった。

新しい学校で、新しい友達をなかなか作ることはできなかった。たまに行く登校日、休けい時間は、いつもひとり本を読んでいた。とてもさみしかった。大好きな剣道のけい古も、先輩たちと一緒にすることができなかった。ひとりだけ古い古する毎日。

「おもしろくないなあ」

「このけい古でいいのだろうか」

と、不安になった。

「ここで、やめたらあかん」

と、自分に言いかけた。

休校がとけた今、自分で時間割りをきめ、それを実行していたおかげで、だらけることなく学校生活をおくれている。

コロナのせいで、普通の中学生生活をスタートすることができなかった。でも、コロナのおかげで、自分を見直し、成長することができたと思う。

「コロナのせいで、コロナのおかげで」